事業計画書

特定非営利活動法人わがこと
（香川県災害中間支援組織）

NPO法人わがこと

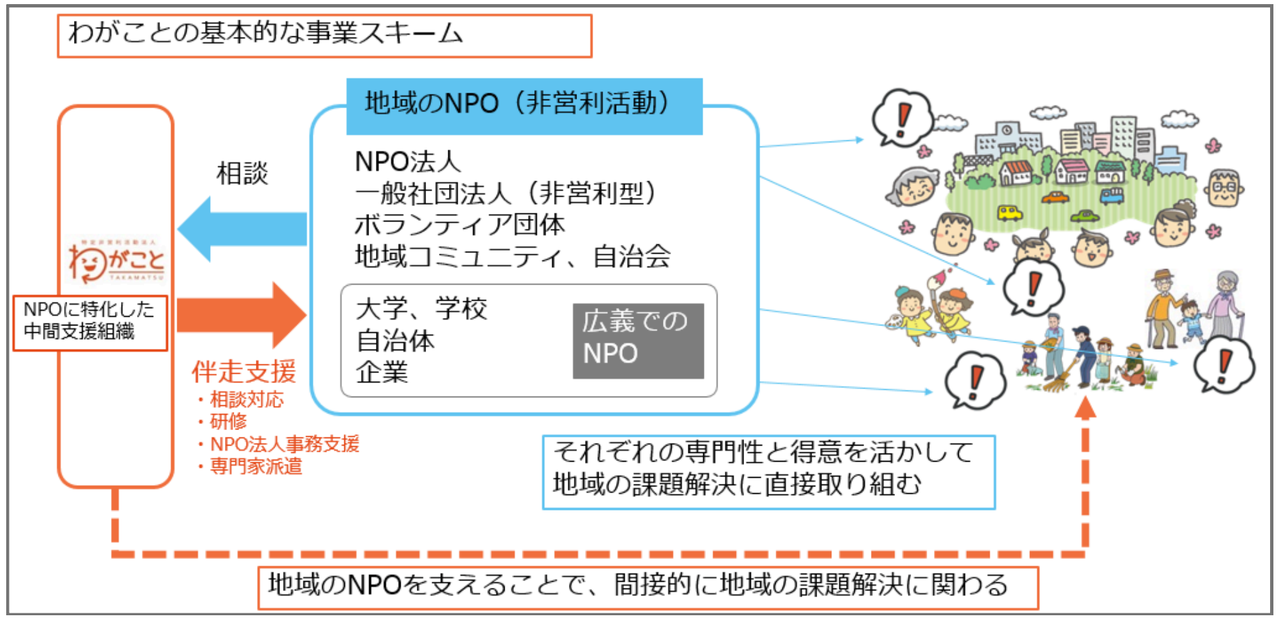
一人ひとりに、出番を

一人ひとりの出番を創出し、多様なコミュニティとのつなぎ役になります。
地域の暮らしを豊かにする市民に伴走します。

設立年月日　2018年1月11日
役　　員　代表理事　大美 光代
　　常務理事　山地 武
　　理　　事　湯川 致光　長尾 舞子
　　秋山 美智子　安川 典子
　　監　　事　村上 和広
正会員数　19名

主な事業

- 香川県NPO・ボランティア活動支援事業
- 高松市市民活動センター指定管理業務
- たかまつ女性活躍促進事業
- ICT支援事業
- 各種講師派遣、ファシリテーター派遣　他



香川県災害中間支援組織

ロードマップ

2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度
• 専門研修（15分野） • 被災想定訓練 • 情報収集、発信、公開（HP等） • 災害中間支援組織内の事務調整					• 情報収集、発信、公開 • 災害中間支援組織内の事務調整
組織内の連携強化					
協力団体登録、訓練、研修への参加勧奨、香川県全域対象					
		県内企業、県外団体との関係性づくり			
			最低限の資金調達、自主事業の検討		

※予算の目処が立たない場合は、基本的な調整機能はわがことが担い、その他は予算状況に応じて実施する

5年後の資金調達の検討と合わせて、仮に最小限の予算であっても地域全体として県民の命を守るために役割と出番をもつ団体や組織の育成に注力する。**資金確保と協力団体の育成（人材育成）は両輪である。**
5年間の間に、協力団体をはじめとするNPOや地域団体と目的を共有し、主体的、自発的に、災害支援や防災を事業計画に盛り込める団体を育成し増やす。

02　香川県内で災害時に想定される課題等(香川県整理)

①災害経験が少ない

- 災害経験の少なさ故の支援調整、コーディネーションの共通理解の不足

②地理的な要因

- 多くの有人島を抱えており、船舶アクセスの途絶や道路寸断による物資輸送困難

③NPO等の活動の偏り

- こども食堂、居場所づくり、地域福祉などの福祉分野に集中しがち→外国人、家屋保全、在宅避難者支援等へ対応ができる団体が少ない
- 関心のある団体は多いが、平時からのつながりや相互理解が弱い

④中間支援組織が脆弱

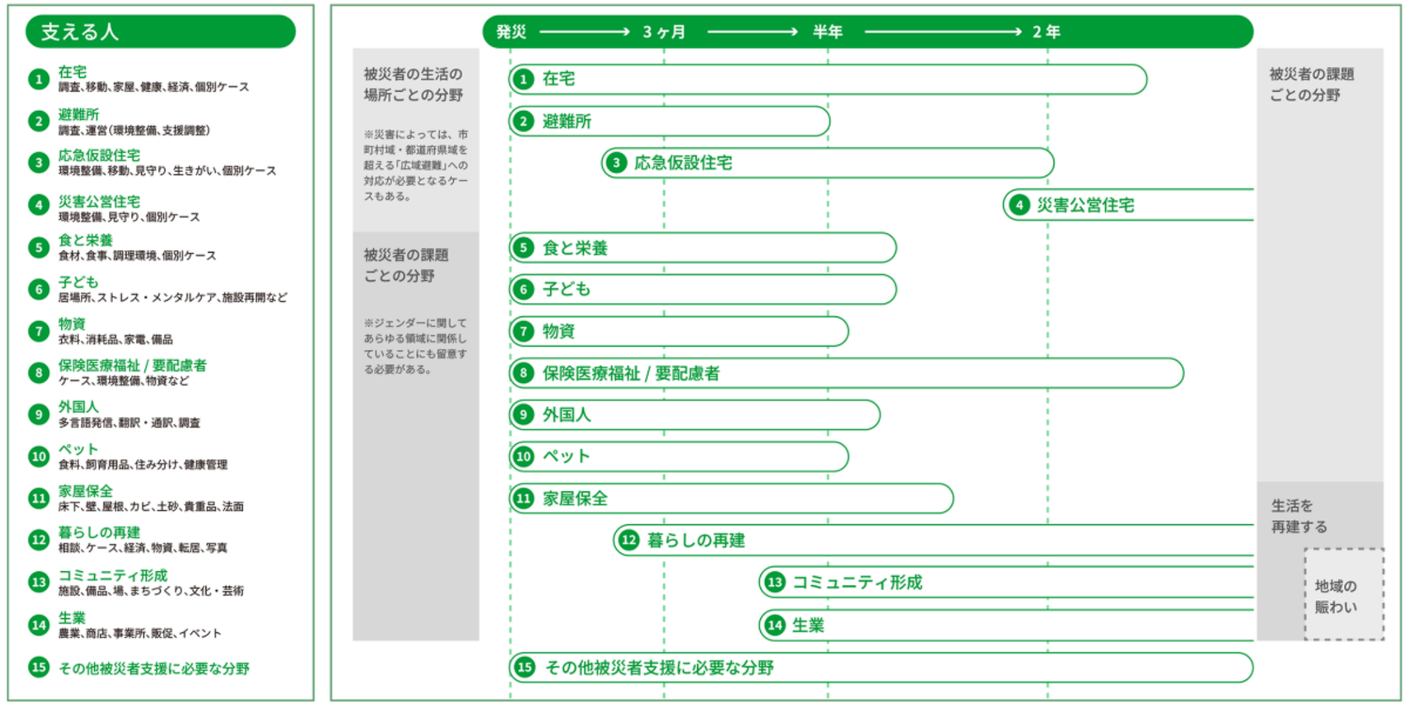
- 発災時の専任スタッフの確保ができない
- 県内のニーズ、支援可能分野、活動エリアのデータベース不足
- 行政が事務局を担っており、職員の異動でノウハウが蓄積されない

平時の連携を強めるための調整役（つなぐチーム）が民間側に必要
→NPO中間支援が他セクターと連携を強めつつ、災害時を想定した事業に取り組む

05　事業計画

①支援体制の整備

- 現場のステークホルダーの整理、分析
- 15分野の中から不足している分野を特定
- 不足している分野のプレイヤーを発掘し、香川県災害中間支援組織協力団体への登録を勧奨
- 専門研修の企画、運営
- 支援者ネットーワーク、連絡体制の構築



出典：「被災者支援の全体像（14分野×時間）
※全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）」をもとに日本財団加工

【初年度専門研修】

- 災害中間支援組織幹事団体（日赤、県社協、香川大学）が1回ずつ企画、講師をする**（予定）**
- 協力団体にも１～２団体程度担当してもらう

05　事業計画

②被災想定訓練の実施

- シナリオ作成
- 開催のための各種調整

【初年度目標】
- 15分野中5分野の参加
- 香川県災害福祉支援センターとの協力体制構築
- 小中高大生、若手、地域防災の巻き込み

③地域社会への啓発

- 被災想定訓練の知見を広く県民に公開
- 地域円卓会議の開催
- 災害中間支援組織のホームページ、SNS管理

【初年度目標】
- 地域円卓会議開催（1回）
- 情報発信ツールの利用開始（SNS等）

④連絡調整基盤の整備

- つなぐチームとしての調整機能
- 情報のデータベース化
- 人材育成プログラムの開発

【初年度目標】
- 災害中間支援組織の幹事団体間の調整
- アウトリーチ等、地域の状況把握分析
- 本事業の進捗管理、年度報告書の作成提出

05-② 被災想定訓練 「足りないものだらけ」訓練

目的

- 何がリソースが足りていないのか？抜けている視点は何か？を避難生活の擬似体験を通して検証する、リアル訓練を実施
- 災害、防災分野で活動している人だけでなく、企業、NPO、行政機関、多世代を巻き込んだ訓練を目指す

実施概要（※日時、場所は調整中）

日　時	**2027年1月30日（土）31日（日）**
会　場	高松市内で調整中
参加者	県内の企業、災害支援・防災分野団体（香川県災害中間支援組織協力団体等） 地縁組織関係者、関心のある個人 他

05-② 被災想定訓練 「足りないものだらけ」訓練

日程	内容
DAY１ 被災想定訓練	• 指定した避難場所（高松市内調整中）まで避難してくる • そこには何も準備がない →通常の防災訓練は準備万端！実際はそんなことはない • 更に時間の経過とともに様々な困りごとが起こる →トラブルカードを準備し、時間が来たら開いてそのトラブルアクションを実行してもらう • その都度必要なものを調達してもらう（事務局で予め準備） • 体育館で一晩過ごす
DAY２ 被災想定訓練 振り返り会議	• 午前中まで訓練 • お昼を挟んで振り返り会議（キッチンカー等でほっと一息） →災害時に何が足りていないか、どう準備するか →そもそも想定されていなかった視点は何か

【役割分担】

平時	当日の役割
災害支援、防災関連活動団体	支援者 ・避難生活の支援 ・避難者の対応
関心のある企業、個人等	避難者 ・普通に避難してきた市民
香川県災害中間支援組織	運営者 ・訓練ルール徹底、記録

【注意事項】

- リアルは求めるが、リスクマネジメントは徹底する。休憩時間も設ける
- つながりづくりのきっかけを意識する
- 途中脱落も想定。その場合の意見聴取を徹底

05-③　地域社会への啓発

実施内容

- NPOや地域企業にアウトリーチをかけて、日頃の事業の様子を把握し、災害時の役割と出番を確認。香川県災害中間支援組織ホームページ等で公開する
- 地域円卓会議の開催





- 香川県公式ホームページ上で情報を蓄積し、災害時にも役立つオープンデータベースとする
- 地域で実施される訓練や災害支援の活動についても、積極的に現場訪問しアップする
- 並行してSNSの運用も開始する

06　体制図

- JVOAD
- DMAT
- DWAT
- 日赤医療チーム
- 地域自主防　等

防災、災害支援関連
専門団体との連携

つなぐチーム

※事務局（調整）はNPO
法人わがことが担う

香川県災害中間支援組織
＜幹事団体＞
香川県／香川県社協
日赤香川支部／香川大学
NPO法人わがこと

香川県災害中間支援組織
＜協力団体＞
約20団体が加入

香川県災害福祉支援センター

- NPO
- 市民活動団体
- 企業、学校
- 関心のある個人

防災、災害支援関連
専門ではないが、災害時には役割と出番をもつ主体との連携促進

つなぐチームを中心に、平時にも災害時にも地域で
役割と出番を持つ団体や個人との繋がりを育む

06　体制図

香川県災害中間支援組織
香川県／香川県社協
日赤香川支部／香川大学
NPO法人わがこと

統括責任者（大美）
- 関係機関との連携
- 外への広報

プロジェクトマネージャー　2名
- 事業の進捗管理
- リソースの管理

①支援体制の整備
- 従事職員1名
- 日赤、県社協、香川大学に専門研修企画依頼

②被災想定訓練の実施
- 従事職員2名
- 災害支援専門補佐1名
（香川県社協or香川県災害福祉支援センターより）

③地域社会への啓発
- 従事職員2名
- 業務委託1名NPO人材

④連絡調整基盤の整備
- 専任職員1名（事務局）
- 従事職員1名

本事業では、香川県災害中間支援組織の幹事団体（予定）として申請する

現時点での想定連携先（お声かけできる先）

地縁組織（自治会等）/学校機関/NPO/四国経済産業局/高松商工会議所/かがわ産業支援財団/青年会議所/ことでん/四国新聞社/日本総険/穴吹カレッジ/フソウ/高松帝酸/四国電力/かがわガイド協会/FM香川/西日本放送/富士建設/四国EPO/高松地方裁判所/四国生産性本部/地域の社会福祉法人/地域プロスポーツチーム　他